

電動ローラーの欠点クリア

酒井重工 展示会で反応探る

酒井重工は電動ハンドガイドローラーのコンセプトモデルを製作した。ホンダの着脱式可搬バッテリーの搭載により、電動機の弱点である充電時間や稼働時間の欠点をクリアした。環境・エネルギー関連や建設関連の展示会に同機を出展し、顧客の反応を探る。建設機械で油圧シヨベルに続き、道路工専用ローラーの分野でも電動化が進んできた。

(編集委員・嶋田歩)

ハンドガイドローラー「ディーゼル機種」HV1は手押し型の小型締 620」と同等だ。固め機械。酒井重工は電動のため稼働中に電動コンセプトモデルの寸法は幅695mm、長さ2450mm、高さ1175mm、重量は605kgで現行の

ためメンテナンスも容易。手元の振動がないためオペレーターの疲労も減らせる。

動力源はホンダ製の着脱式バッテリーと電動パワーユニットを搭載した。建機は一般乗用車より重量が大きく、パワーも必要のため、並のリチウムイオン電池(LiB)では短時間でパワーがなくなってしまう。工事現場では付近に充電ステーションがないケースも想定され、長時間の作業は困難だ。着脱式バッ

テリーは、こうした課題を解決できる。

酒井重工はこれに

加え、バッテリー劣化時のリサイクル性と開発時のスピードを考慮したとしている。ホンダは国内企業のため輸入禁止などの地政学的リスクがなく、供給の



電動ハンドガイドローラーのコンセプトモデル

着脱式バッテリーで長時間稼働

安全性を確保できるほか、トラブル時のサービスマンやメンテナンス対応も容易だ。

15日から東京ビッグサイト(東京都江東区)で開かれる「国際スマートグリッドEXPO」、5月24日から幕張メッセ(千葉市美浜区)で開かれる「CSP-EXPO建設・測量生産性向上展」に同コンセプトモデルを出品する。

建機業界ではコマツがホンダの着脱式バッテリーを搭載した電動マイクロシヨベルの国内販売を22年3月に開始。15日から国際スマートグリッ

ドEXPOには、参考出展の形で一回り大きい機種を紹介する。

電動式はディーゼル式より価格が2〜4倍と高価なのが難点だ。しかし欧州では導入に向けた補助金政策などが始まっており、カーボンニュートラル(温室効果ガス排出量実質ゼロ)の命題達成に向けて行政が普及を支援する体制を鮮明にしている。米国や中国なども電動化建機の研究が進む。都市部や住宅地の工事を中心に顧客が電動機の長所をどう受け入れるか、行政がどう後押しするかが注目される。